

第4回 船舶のバイオ燃料利用に向けた勉強会 議事概要

勉強会概要	
【日 時】令和8年8月20日(木)10:00~12:00	
【場 所】経済産業省別館 104 各省庁共用会議室(WEB 併用)	
議事内容	
議事(1)船舶のバイオ燃料利用に向けた今後の進め方	「⇒」部分は回答部分
○事務局(国土交通省海事局海洋・環境政策課)より資料3を用いて説明。	
○主な意見・質問	
・【質問】資料4ページの調査研究事業に関して、現在ジャトロファ油の輸入事業者にて、ジャトロファ油 SVO10%混合重油を用いた実船実証実験を進めている。今年度の調査研究において、FAMEに加えてSVOも考慮いただける機会があれば、相談させてほしい。	
⇒今後確認のうえ対応する。	
・【質問】パーム油 FAME に使用するパーム油について、ストレートのパーム油か、それとも、パーム製造工程から発生する POME のような残渣物から作成した FAME のどちらか。パーム産業の規模も大きく、様々なところから製品や副産物が流通してくるため、確認したい。	
⇒今後個別に確認する。	
議事(2)IMOにおける国際海運からの GHG 排出削減対策の議論動向について	
○事務局(国土交通省海事局海洋・環境政策課)より資料4を用いて説明。	
○主な意見・質問	
・【質問】1点目は、資料21ページの議論の方向性の説明において、「天然ガスパイプライン等」との表現は、液体燃料も含めてマスバランスとして取り扱う方向性で検討されている理解でよいか。	
2点目は、ガスパイプラインでのバイオガス供給において、船舶用以外にも家庭用等の多くの用途への供給も考えられる。用途別の考え方について、議論の方向性を伺いたい。	
⇒1点目、ご認識の通り。液体燃料についても、マスバランスの議論の対象となっている。	
2点目、用途の絞り方について、関心国の間で、用途別の考え方でも二重計上の防止が論点として議論になっている。IMOの議論の場においては、他用途の燃料の規制については限界があるため、用途の絞り込みは必要との議論となっている。	
・【意見】マスバランスでは、バイオディーゼルもバイオガスも同様に考えているとのことだが、燃料使用の観点で気体燃料と液体燃料での課題は発熱量と考える。バイオガスと天然ガスについて、そのほとんどは発熱量が同量である。一方、バイオディーゼルは重油と比較して10~15%程度が異なるため、実際に使用すると発熱量が低い(燃費が悪い)ことも発生することから、留意する必要がある。	
議事(3)バイオ燃料政策の概況	
○経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部燃料供給基盤整備課より資料5を用いて説明。	
・特段の質問はなし。	
議事(4)内外航海運の脱炭素化に向けた最新の取組	
○株式会社商船三井より資料6-1、川崎汽船株式会社より資料6-2、日本郵船株式会社より資料6-3を用いて説明。	
○主な意見・質問	
・【質問】国内と海外における B24 燃料価格差の要因について、知見や分析結果があれば伺いたい。	
・【質問】国内外の価格差について、重油部分又は FAME 部分に起因するものか、それとも B24 燃料全体として生じている価格差なのか。	
⇒B24 燃料そのものの価格比較によるもの。それぞれの要因は分析できていない。	
⇒国内外の供給体制や取扱量の差異が価格差の一因と考えられる。	
○事務局より今後のスケジュール等について案内があり、閉会	